

吉田城址

を市指定史跡にしました

吉田城址には、安土桃山時代以来の石垣や堀などが数多く残っています。市街地でありながら、これらの遺構が取り壊されずに残されているのは大変珍しく、貴重なものです。
しかし、石垣などには長年の傷みが蓄積し、損傷が続いています。

遺構を守り、未来に伝えていくため、令和4年3月30日に吉田城址を市指定史跡としました。
今回の特集では、吉田城址が高く評価されているポイントを紹介いたします。

問合せ 文化財センター(☎56・6060)



吉田城のプロフィール

1496(明応5)年頃に築かれ、1522(大永2)年に今橋城から名前を改めたとされる吉田城は、江戸時代前期には、西は関屋町、南は曲尺手町、東は飽海町と、敷地面積は約873,000㎡にも及び、本丸・二の丸の2つの御殿と、格式が高いとされる三階建ての櫓5棟を含む計9棟の櫓が築されました。江戸時代に天守として築かれた、城内最大規模の建物であった鉄櫓は、1954(昭和29)年に開催された豊橋産業文化大博覧会に合わせ、復興されました。



川手櫓 鉄櫓

千貫櫓

南多門

豊川



石垣

鉄櫓の櫓台として築かれた、野面乱積みの高石垣は、城内で最大規模のもので、これは、安土桃山時代の石垣で、発掘の結果、当時の東海地方で最大級の、12.7mもの高さを誇る事がわかりました。石垣の下には、高さ約1mの石組み基礎が確認されました。また、石組み基礎の前にはさらに、基礎を支えるための整地基礎が造られています。これらは、豊川に面した軟弱な地盤に高石垣を築くための当時の最先端技術で、大変貴重な遺構です。



2021(令和3)年5月、本丸広場入り口の石垣の一部が崩落しました。石垣の上に生育した樹木の根が、石垣を形成する石のバランスを崩し、そこに雨水が入り込んだことが原因と考えられます。



確認されているだけでも120か所を超える石垣をはじめとする吉田城址の遺構は、長年の風雨にさらされたり、自然環境などの変化により損傷しています。発掘調査により新発見が続く吉田城址ですが、さらに研究を推し進め、城址を将来に伝えるためにも、今後保全の必要性が高まっています。

豊橋

 土塁・空堀

吉田城址には、総延長1,000mを超える土塁が現存しています。これは、市街地の城郭では全国屈指の規模で、他では見ることができない貴重な景観と言えます。

また、吉田城の堀の多くは水が溜まっていない空堀で、造られた時期や役割が異なる複数の堀が確認されており、時代の移り変わりとともに堀の役割が変化したことがうかがえます。しかし、土塁や空堀は明治時代に廃城となってから、急速に埋まり壊されていきました。



 水門

吉田城は城の立地だけでなく、構造にも豊川が密接にかかわっていました。三の丸には水門が築かれ、吉田城は直接、豊川と繋がっており、豊川を利用して運ばれた荷物はここから城内に入りました。

堀などを介さず、水域と直接繋がる城は全国的に珍しいものですが、現在見ることができる水門の遺構は、門の両側に築かれた石垣のみです。この石垣には大型の石材が用いられており、豊川方向から城を見る人々に権威を示す狙いがあったと考えられます。



水門

二の丸口門

三の丸口門

お知らせ

その一

市史跡指定記念講演「楽しく知ろう 吉田城」

吉田城址の魅力を紹介します。城初心者でも気軽に楽しめる講演です。

とき 7月16日(土) 13時30分

ところ 公会堂

講師 加藤理文さん(日本城郭協会)

理事)ほか

定員 600人(先着順)

その二

ガイドブック「歩いて楽しむ吉田城」を作成しました

今でも実際に見ることが出来る吉田城の遺構を中心に取り上げ、発掘調査成果も交えながら、吉田城の魅力を紹介しています。その一の講演会で入手できます。

